

インテリアコーディネーター、
美術品蒐集家、表具師・岡来蔵

「岡来蔵関係資料」

明治期から昭和戦後期にかけて、日吉町に表具店を構えた岡来蔵（号「芝玉堂」）、1895～1953）の旧蔵品を中心とする資料群です。内容には、江戸時代の久留米藩窯の陶器や御用絵師三谷家の絵画、岡と親交の深かった芸術家の作品や書簡などがあります。

《石橋正二郎と画家をつなぐ》

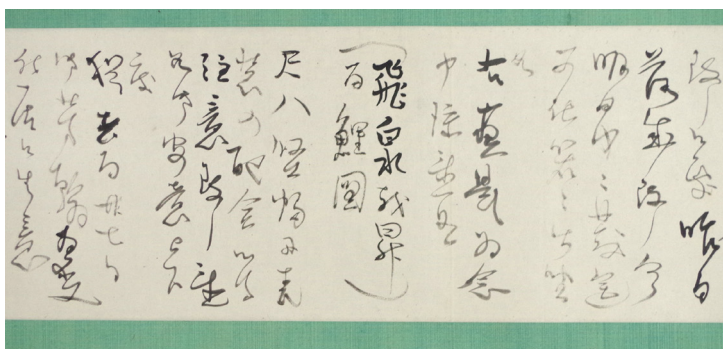
昭和5年（1930）、秩父宮同妃両殿下が久留米を訪れ、石橋正二郎邸に滞泊します。正二郎は当時、日本足袋株式会社社長、翌年ブリヂストン株式会社を創業する新進の実業家でした。この時、石橋邸の



「御泊所奉仕當時ノ職員一同 岡芝玉堂」。前列 右から2人目が岡来蔵

室内装飾のコーディネイトを任せられたのが岡来蔵です。その成果は

「秩父宮同妃両殿下御滞泊記念寫眞帖」に収められています。特に室内を飾った絵画は、この時のために制作を依頼したもので、蒐集家でも知られる正二郎の初期コレクションを形成します。富田溪仙（1879～1936）や筆谷等観（1875～1950）から岡に宛てた書簡が伝わり、正二郎の依頼を画家たちになぐため、奔走した岡の功績を映し



富田溪仙書簡（部分）。書中で今回描いた作品の名称は「飛泉を昇る鯉図」であると伝えている

出します。

《芸術家との親交》

岡は表具師として美術品と接する一方、その蒐集家でもありました。日常的に芸術家と交流し、京町出身の洋画家・坂本繁二郎（1882～1969）や荘島町出身の鍍金家・豊田勝秋（1897～1972）と親交がありました。



坂本繁二郎作「放牧一馬」

・坂本繁二郎「放牧一馬」

岡の依頼を受けて繁二郎が制作したものです。ただし、納品されたのは岡の没後で、作品には繁二郎の詫

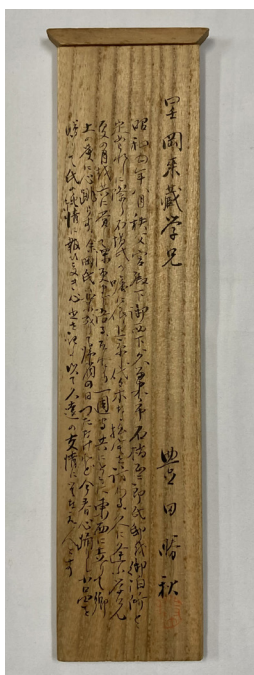
びの手紙が添えられています。

繁二郎は「馬の画家」と呼ばれるほど多くの馬の絵を描きました。本作は水彩画で、絵の具の特性を生かした複雑な色味を用い、馬の体を立体的に表現しています。

・豊田勝秋「鍍銅花器」

岡は豊田の「鍍銅花器」2口を所有していました。1口は昭和4年（1929）に制作され、同6年の無型展に出品されたものです。無型とは、大正15年（1926）に結成された工芸家の団体で、豊田は結成から参加し、工芸美術の地位向上に尽力しました。

もう1口は、岡のために制作されたものです。作品を収めた箱の蓋裏に、その経緯が良く記されています。豊田は昭和5年（1930）に「学兄」と慕う岡との再会に感動し、翌年制作した作品を「久遠の友情にそなえん」として岡に贈りました。



昭和6年作鍍銅花器の箱書き